

PRESS KIT

PIAGET
MAISON OF
EXTRALEGANZA



夏は緑の牧草地、冬は真っ白な雪に覆われたスイスの山奥。その制限された環境で、ピアジェ家はウォッチを作り始め、鮮やかな色彩、大胆な革新性、卓越したクラフツマンシップの世界を築き上げました。ピアジェが表現するのは、Extravagance（華やかさ）とElegance（優雅さ）が融合した「エクストラレガンザ」の世界。ピアジェ家の世代ごとに多様な才能を発揮し、ウォッチメーカー、そしてジュエラーとして芸術性を極めたメゾンの歴史を築き上げ、人々の想像をはるかに超える作品を提供してきました。



1915年、ジョルジュ=エドワール・ピアジェ一家。
最初のページ：スウィング ソートワール ネックレス、
29mm、自社製クォーツムーブメント、
イエローゴールドにクッションカットのイエローサファイア1石
(29.24カラット)、クッションカットのアクアマリン1石
(6.11カラット)、ラウンドカットのイエローサファイア、
ブリリアントカットのダイヤモンド、マラカイトおよび
ターコイズビーズをセット

PIAGET

1874年、ジョルジュ＝エドワール・ピアジェは、
ラ・コート・オ・フェの長い冬を利用して、
ウォッチムーブメントを製造しました。
彼は早くから卓越した品質と精度を誇る
薄型脱進機を制作し、遂には、当時の名だたる
ウォッチブランドに製品を供給しました。
彼のモットーである「常に必要以上に
良いものをつくる」という考えが、
その後受け継がれる礎となりました。

20世紀半ば、ジョルジュ＝エドワールの孫であるジェラルドとヴァランタンは、
ラ・コート・オ・フェからラ・コート・ダジュールへと、ピアジェのビジネスを
発展させました。ジェラルドは世界中を飛び回ってピアジェの知名度と存在を高め、
ヴァランタンはウォッチブランドとしてのピアジェをさらに飛躍させる方法を考え、
薄型ムーブメントという着想を得ます。この革新的なムーブメントは、後に続くすべての
偉業への道を切り開いたのです。

薄さわずか2mmの高精度手巻ムーブメント、キャリバー「9P」が1957年に発表され、
1960年には、当時流行していた自動巻ムーブメント開発の一環として、「12P」
が発表されました。薄さわずか2.3mmという世界最薄の自動巻きムーブメントでした。
これらのこの革新的な開発は、ウォッチのキャリバーに革命をもたらしただけ
でなく、ケースと文字盤を技術的、サイズの制約から解放し、メンズ・レディースを
問わず、ウォッチにおけるクリエイティブな表現の最高の礎となりました。

PIAGET

オーラ ウォッチ、27.5mm、
自社製薄型手巻ムーブメント、
ホワイトゴールドにエメラルドカットの
ダイヤモンドとルビーをセット





1957年、ピアジェはある決断を発表します。
それは、「今後プラチナとゴールドのウォッチしか作らない」
というものでした。実用的なスポーツウォッチを
重視し始めていた競合とは反対に行く、大胆な
声明でした。当時の広告のキャッチフレーズ
「天賦のクリエイション、華麗なディテール」に集約される
ように、ピアジェは技術的なノウハウと同様に、
優れた技術、審美的な美しさ、特別な素材を大切に
するウォッチメーカーとしての地位を確立しました。

ピアジェは、ジュラ山脈奥深くにあるマニファクチュール、ジュネーブの
アトリエ内にある鋳造所、時計職人、金細工職人、石工職人、彫金職人など、
高度な技術を持つチームを含め、社内のあらゆる力を結集してクリエイションを
作り続けてきました。

熟練した技術と先見の明を基に、ヴァランタンのジュエリーウォッチに対する
ビジョンが生まれました。1960年代後半、彼はピアジェ独自のクリエイティブ
スタジオを設立しました。ウォッチメイキングよりもジュエリー制作の経歴を持つ
デザイナーを起用した彼は、「今までになされてこなかったことをしなさい」と
指示し、パリにデザイナーを派遣し、最新のクチュールファッションショーから
インスピレーションを得るよう奨励しました。デザイナーたちはファッション雑誌の
ページを破り、そこに掲載されている写真に直接デザインを描き、1960年代の
世界を特徴づけた解放とモダニティの風潮を捉えたクリエイションを生み出しました。

スウィング ソートワール ネックレス、
29mm、自社製クォーツムーブメント、
ピンクゴールドにブリリアントカットのダイア
モンドをセット、ホワイトオパール文字盤

PIAGET

1959年にピアジェが初めて発表したハイジュエリーは、アシンメトリー（非対称）とミックスカットの石を使った遊び心溢れたデザインでした。ムーブメントは、もちろん、ピアジェ製でした。ピアジェは、ゴールドの可鍛性を独自の創造性のために活用し、高級生地のリボンのように首や手首にフィットし、身につける人に合わせて自由に動く、官能的な傑作を世に生み出しました。ダイヤモンドと緻密に織り込まれたゴールドは、あらゆる方向にまばゆいばかりの輝きを放ちました。

新たな創造性への一步を踏み出したピアジェは、1959年6月、ジュネーブに初のブティックをオープンします。ピアジェのウォッチはすでに世界中で販売されていましたが、このブティックは、オートオルロジュリーとハイジュエリーの両分野におけるピアジェの独創的なクリエイションを、ユニークなデザインで表現する場となりました。湖畔の街に立ち並ぶ歴史的建造物とは対照的に、このブティックは現代性を表現していました。従来のブティックのウィンドウは大きく商品で埋め尽くされていましたが、ピアジェのブティックは、道行く人が立ち止まり、厳選された少数の魅力的な作品が並ぶ様子を覗き込みたくなるような狭いウィンドウでした。「サロン ピアジェ」として知られるこのブティックのサイネージに書かれていた「Piaget Horlogers Joailliers (ピアジェ ウォッチ ジュエリー)」という短い言葉は、ピアジェのすべてを表していました。店内は店舗というよりアートギャラリーで、大胆なデザインと卓越した技術を堪能できる場所でした。

PIAGET

スウィング ソートワール
トランスフォーダブル ネックレス、
自社製クォーツムーブメント、
ピンクゴールドにエメラルドカットの
イエローサファイア1石 (11.31カラット)、
カボションカットのホワイトオパール1石
(11.68カラット)、エメラルドカットの
ダイヤモンド1石 (1.20カラット)、
イエローサファイア、ホワイトカルセドニー、
ダイヤモンドをセット





これらのクリエイションを生み出したチームは、過去の堅苦しいファッションを拒否し、現代性と色彩を組み合わせた新しい魅力を求める顧客と共鳴しました。1966年、ピアジェは初めて装飾文字盤のウォッチを発表しました。これは、ジュエリー職人の高い技術の証であり、周りのゴールドのケースに映る温かい太陽の光に照らされるよう、繊細な石をスライスすることで、その独特の美しさを際立たせることができたのです。

ラピスラズリの深いブルー、マラカイトの豊かな縞模様、鎖帷子のように織り込まれたゴールドの弾けるようなきらめきとのコントラスト。ピアジェは、独自のデコパレス（パレス装飾）を開発し、その効果をさらに高めました。ウォッチの文字盤を美しく彩るために何世紀にもわたって用いられてきたギョーシェ彫りの伝統をルーツに、この技法を文字盤だけでなくゴールドブレスレットに、樹皮や毛皮、霜などの自然のパターンを模した、豊かで緻密なテクスチャーを作り出すエングレーヴィングを始めたのです。やがてメゾンは、エリザベス・テイラーやジャクリーン・オナシス・ケネディ、ウルスラ・アンドレス、アラン・ドロンなどを熱烈なファンに持つようになりました。

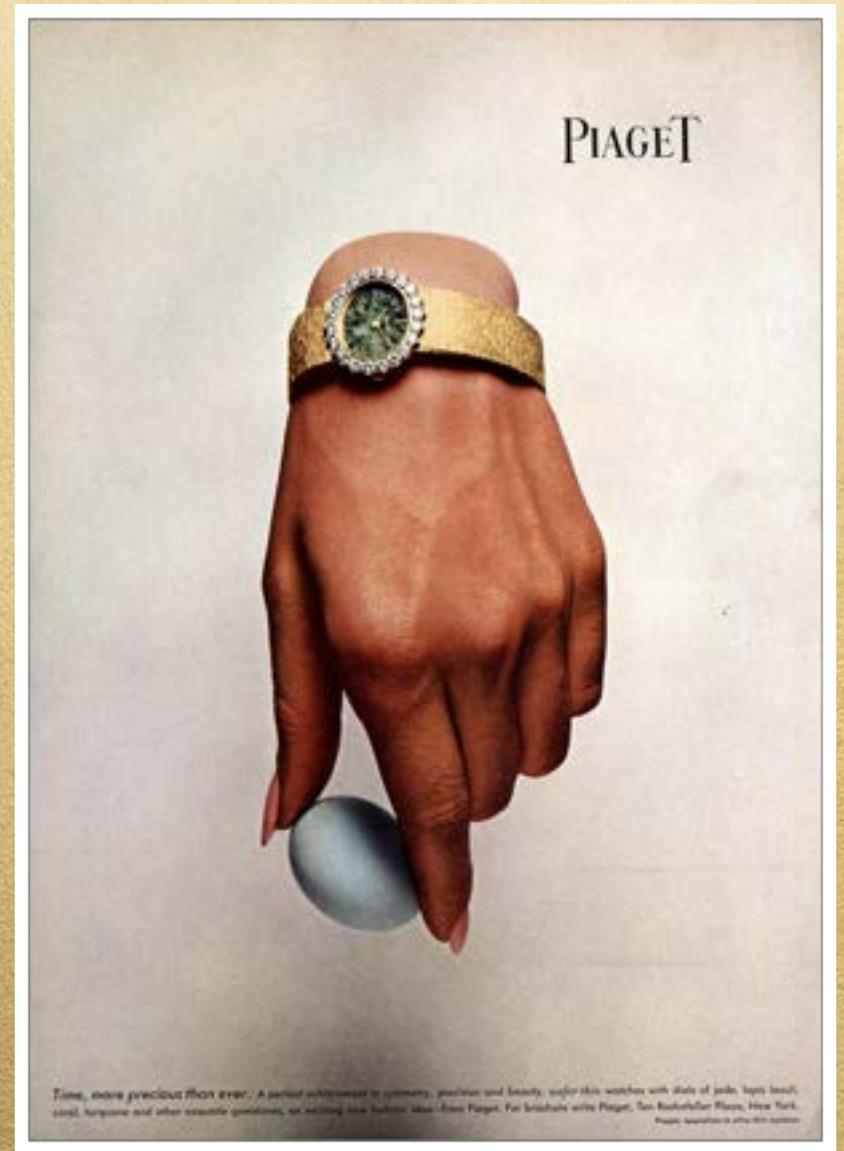
しかし、これらはすべて、ピアジェの「21st Century」コレクションがもたらす革命への布石でした。この華やかなジュエリーの創造性とウォッチメイキングの神髄は人類が初めて月面を歩いた年と同じ、1969年のバーゼル・ウォッチ・フェアで発表されました。20世紀を代表する偉大なウォッチデザイナー、ジャン・クロード・ゲイトを含むクリエイティブチームが手がけたこの唯一無二のジュエリーウォッチコレクションは、エレガントな手彫りのゴールドケース、複雑なチェーン仕上げ、そして精巧なカフスにウォッチをはめ込んだり、ソートワールからぶら下がる革新的なデザインでした。ピアジェは瞬く間に大きな成功を収め、独自のピアジェ・ソサエティが誕生し、華やかで裕福なジェットセッターや先鋭的な芸術知識層からなる先駆的な顧客層が、対照的にスイスのジュラの人里離れた山中で創業したメゾンを全面的に受け入れたのです。

ライムライト ガラ ウォッチ、28mm、
自社製クォーツムーブメント、
ホワイトゴールドにブリリアントカットの
ダイヤモンド、マーキスカットのサファイア、
マーキスカットのエメラルド
ブラックオパールの文字盤

PIAGET

同時にピアジェは、ヴォーグ誌と
ハーパース バザー誌で「21st
Century」コレクションの大胆な
キャンペーンを展開し、ウオッチの
広告に革命を起こしました。これらの
キャンペーンは、ファッション写真の
あり方を再考していたイタリアの
写真家兼アーティスト、アルベルト・
リッツォとのクリエイティブな
コラボレーションの賜物でした。
アンディ・ウォーホルのスタジオ
「ザ・ファクトリー」
の常連であったリッツォは、
色彩、構図、光を駆使して、きわめて
モダンで、シュールレアリスム的な
写真を撮影しました。それは、ピアジェの
卓越した素晴らしいクリエイションに
完璧にマッチしていました。

PIAGET





1960年代、ジェラルドの息子イヴがピアジェに加わり
ました。時計師として、また後にジェモロジストとしての
教育と訓練を受ける一方で、彼は芸術性とハンド
メイドをこよなく愛し続けました。「私たちはウォッチを
創るのであって、生産するのではありません」と
彼は語りました。イヴはカリスマ性と魅力にも恵まれて
おり、旅行好きであったことから、ピアジェを地球の
隅々にまで広め、ブルック・シールズやウルスラ・
アンドレスなど、1970年代から1980年代にかけて
活躍した著名人と顧客関係を築きました。
それが、彼のピアジェ ソサエティとなりました。

細心のディテール、クリエイティビティとカスタマーエクスペリエンスという3つの
要素が1つになって、「スタイル セレクター」というオーダーメイドシステムが
生まれます。マンハッタンの中核部にあるピアジェ ブティックで始まったこの
革新的なサービスでは、時計愛好家のアンディ・ウォーホルのように、ケースの形状、
文字盤とブレスレットのタイプ、ジュエルセッティングを選択し、自分だけのカスタム
デザインを作ることができました。それは単なるサービスではなく、ライフスタイル
であり、ピアジェ独自の卓越した技術を示すものでした。ピアジェが
「エクストラレガンのメゾン」と名乗るは、独自のノウハウと、独特のエレガンスと
洗練された華やかさを象徴する存在だからなのです。

カフ ピアジェ クリエイティブ コレクション、
25mm、自社製クォーツムーブメント、
ピンクゴールド、ブラックオパールの文字盤

PIAGET

ピアジェについて

ピアジェの独特の魅力はその大胆なスタイルにあります。1874年の創業以来受け継がれるクリエイティビティー溢れるスタイルは、華やかな時計やジュエリーに体现されています。大胆な創造性に対する情熱は、スイスのジュラ山脈にあるラ・コート・オ・フェで生まれました。メゾンの創立者であるジョルジュ=エドワール・ピアジェが、その村にある家族の農場の中に最初の工房を設け、高性能ムーブメントの制作をはじめたのは1874年のことでした。このときから時計職人としてのピアジェの名は広く知られるようになります。パイオニア精神を大切にするピアジェは、1950年代後半に薄型ムーブメントの設計・製造に乗り出しました。メゾンを代表する

「アルティプラノ」の礎石となるそのムーブメントはピアジェの代名詞のひとつになり、時計製造の世界に確かな足跡を残しました。同時に、ピアジェは常に創造性と芸術的な価値に重きをおき、ゴールドと色とりどりのカラーの融合、新しいシェイプ、高価な宝石、オーナメンタルストーンの文字盤といったスタイルを受け継いできました。卓越したクラフツマンシップのもと、メゾンは「アルティプラノ」、「ピアジェ ポロ」、「ライムライト ガラ」、「ポセッション」、「ピアジェ サンライト」「ピアジェ ローズ」、「エクストリームリー ピアジェ」などの素晴らしいクリエイションを創り続けています。

PIAGET

WWW.PIAGET.COM

WWW.FACEBOOK.COM/PIAGET

WWW.INSTAGRAM.COM/PIAGET/

WWW.PINTEREST.COM/PIAGET/

WWW.YOUTUBE.COM/PIAGET

WWW.LINKEDIN.COM/COMPANY/

WEIBO.COM/PIAGET

#POSSESSION

#MAISONOFEXTRALEGANZA

#PIAGET150

#PIAGETSOCIETY

P

ピアジェ ポロ ウォッチ、36mm、
500Pi自社製自動巻ムーブメント、
ピンゴールドにトラペーズカットの
パープルサファイア、ピンクサファイア、
オレンジサファイア、ルビー、
ツァボライト、シトリン
マザーオブパールの文字盤

